

5.18

■司会 松尾 透 <長崎県> 野母崎町企画課係長
青木真理子<島根県> 斐川町教育委員会社会教育主事

1. 田圃の中のキックベース大会「泥リンピック」のねらいと成果

9:00～9:25

小谷 順万<鳥取県> 日野町池津公民館長

地区の公民館活動の一環として、田圃の中でキックベースボールをやったら楽しいのではないかと思いついたのがきっかけで始まり、今年で4回目を迎える。第1回大会では財源ゼロだったのが、地区からの予算がつくようになり、会自体も大きくなってきた。大会は、キックベースボールだけでなく親子のサッカー大会、子どものドッジボール大会、鯉つかみなど、ドロを通じてふれあう楽しさをねらっている。企画の展開、成果などを発表する。

2. 「すいかながいも健康マラソン大会」の経緯と今後の展望

9:25～9:50

永田 洋子<鳥取県> 大栄町教育委員会教育課長補佐(大会事務局)

地元特産の大栄スイカ食べ放題を売り物に、毎年7月の第1日曜日に開催している大会である。ランナーが7,000人を越えるこの会には、多数の町民がボランティアとして協力し、町をあげてのイベントとなっている。過去10回をふりかえり、大会発展の経緯、取り組みの成果と課題、今後の展望などについて発表する。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

3. ドロの海の活用「ガタリンピック」フォーラム鹿島の理論と実践

10:25～10:50

土井 敏行<佐賀県> 株式会社兼茂

地域おこしの力になろうと14年前から活動してきた市民会議「フォーラム鹿島」は、青年会議所、商工会青年部、農・漁協青年部、市役所若手職員の会、連合青年団等などのメンバーが約1,000名。そのメイン行事が、ドロの海を逆手にとった「ガタリンピック」である。5月の連休時、泥海を泳ぐガタフライ、ガタスキー競争等の催しに、全国から4～5万人が集う。地域の活性化と共に、国際交流、人材や郷土愛の育成をも意図した活動展開を紹介する。

4. 河川敷でのアウトドア・スポーツ事業の目的と方法

10:50～11:15

－ふれあいと自然体験の場の提供－

平川 裕之<福岡県> 田川市教育委員会生涯学習課体育係

地域の特性を活かし、英彦山川の河川敷でアウトドアスポーツ事業を展開している。この事業によって、子どもから高齢者まで、さらには親子・家族などがふれあい交流できる機会を確保するとともに、自然体験を通して、環境や自然を大切に作る心を育み、主体的に行動できる実践的な態度や能力を育成することを目指している。この事業の展開過程、問題点、成果等について報告する。

5. 総括討論

11:15～11:40